



## インタビュー 味道楽

たけだ そうらん / 1975年、熊本県生まれ。3歳から書家である母に師事し、書を学ぶ。東京理科大学工学部卒業後、NTT勤務を経て、書道家として独立。さまざまなジャンルとのコラボレーションや、斬新な個展で注目を集める。NHK大河ドラマ「天地人」をはじめ、数々のドラマや映画の題字、ロゴを手がけるほか、講演会やイベントへの出演など、幅広く活躍している。書道教室「ふたばの森」主宰。著書に、「ポジティブの教科書」(主婦の友社)、「書いて「夢」をかなえる本」(小学館)など多数。

### 書は生き方

「人を感動させる字は、どうすれば書けるのですか？」という質問をよくされます。字は基本通りに書けば、きれいに書くことができます。しかし、それだけでは人の心を動かすことはできません。人に感動を与える字を書くためには、テクニクよりも書き手の心のあり方が大切なんです。

例えば、木へんを書くとき、実際の木をヒントにします。日本庭園を見て、枝の質感や曲線、色やバランスを目で味わい、風に揺られる木々の音を耳で味わい、自然のにおいを鼻で味わい、「この枝ぶりは何て力強いんだ！」と言葉で味わう。こうして、あらゆる感覚を研ぎ澄ませて木を感じるのです。その心で書いた字は、見る人に本物

の木を感じさせるような趣おもむきを与えます。

「書」とは不思議なもので、半紙に書かれた墨の跡から、書き手の身体の動きや筆のスピード、強さなどを読み取ることが可能です。つまり、書き手の気持ちがあるまま字に表れるのです。心が元気でなければ、勢いのある字は書けませんし、自分が感動していなければ、人を感動させる字を書くことはできません。よく「字は人を表す」と言いますが全くその通りで、隠そうとしても自分が出てしまうのです。書は自分の生き方を見せているようなものなのです。

書を通して表現することは、自分の人生と向き合っているのと同じこと。だからこそ、書道家として人々の心を魅了する字を書くために、常に自分自身の心を磨く努力をしています。